



頭をぶつけたときのお話 (頭部打撲)

頭をぶつけたと言っても、程度は様々です。頭をぶつけて意識が悪いとか、痙攣をおこした場合には周りの人が救急車を呼ぶでしょう。でも、救急車を呼ぶまでもないとき、いくつか気を付けるポイントがあります。

では3つのキーワードです
「嘔吐」「記憶」「6時間」

「嘔吐」とはもちろん吐くことです。頭の中は頭蓋骨というかたい殻で囲まれています。この頭蓋骨の中で出血すると脳が圧迫されて頭の中の圧力がぐんぐん上がってきます。この時にみられる症状は頭蓋内圧亢進症状といって、「頭痛」と「嘔吐」がみられます。

この「嘔吐」ですが、少し違った特徴があります。噴出性嘔吐といって突然噴出するように吐きます。そして吐いた後は比較的ケロッとしてしまうことがあります。二日酔いの嘔吐とは少し違いますよね。

特に小さいお子さんは注意です。遊んでいて頭を床にゴンとぶつけたあと、嘔吐してもケロッとしてまた元気に走り回る。こんな時は元気だからと言って安心してはいけません。頭を打った後に、吐き気があれば、遠慮なく脳かかりつけ医に相談しましょう。

「記憶」はそのとおり頭を打った時の記憶です。ぶつけた一瞬のことはよく覚えていないことがあります。でも、その前の出来事、朝出勤したことや、昨日のことが全く思い出せない、頭をぶつける前に仕事をしていたのか、歩いていたのか全く記憶がない、このようなことを逆行性健忘といいます。もしかしたら何か脳に傷がついているかもしれません。遠慮なく脳かかりつけ医に相談しましょう。

「6時間」とは、頭を打ってから最低6時間は安静にしましょうということです。頭を打った瞬間に脳震盪で意識を失いそのあと目がさめても、3～4時間後に頭の中で血液がじわじわと溜まり再び意識悪くなることがあります。この意識の良い時間帯を意識清明期といいます。もし脳震盪で意識を失った場合はそのあと目が覚めても、必ず病院で検査しましょう。そして6時間は安静と観察が必要です。

また、頭を打った一か月後くらいに慢性硬膜下血腫といって頭の中にゆっくり血がたまる病があります。いろいろ心配なことがありますが、とりあえず頭をうって心配な時には脳かかりつけ医に相談しましょう。

では最後に頭をぶつけたときの気を付ける三つのキーワード

「嘔吐」「記憶」「6時間」です